

# 山と電気の風景論 ②4

## 苗場山と巻機山～残雪の上信越トレッキング～

セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

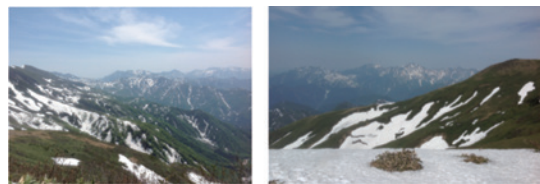
### 両座の特徴

両座は豪雪地帯の上信越高原国立公園に属するスキーエリアである。上越新幹線・関越道を挟み魚沼地帯で左右に対峙する。苗場山は新潟県と長野県北東部の県境であり、巻機山は新潟と群馬県の境に聳える。まさに三國（越後、上州、信州）を分ける名峰である。

苗場山は成層火山であり山頂の西側は侵食カルデラ。山頂南西の大平原があり湿地や小さな湖沼（池塘）が点在しピオトープを形成している。現地で、苗代田の外観から、山名をとったとの説にうなずいた。東側の山麓はスキー場のメッカである。そのスキー場を越えて山頂を目指した。山の南側ルートは長野県栄村は「3メートルもの豪雪地帯で親戚の冬場の生活は一苦労」（電力仲間）である。

一方の巻機山の名前は頂上一帯に御機屋と呼ぶ、新潟美人が機を織っていたという伝説から命名とのこと。山麓には、機織りの女神が巻機権現として祭られている。上州、信州と同じく明治維新・殖産興業で養蚕業が営まれていたのではないかと筆者の信州松本の実家そばに国の蚕糸試験場や片倉工業工場があり、若い頃、桑やカイコを育て絹原料を作り、家で糸巻き機を回すアルバイトをした。そんなことを回想しつつ巻機山を登った。

両座に登った季節は、まだ残雪が残り、山開きの寸前であった。



巻機山から越後三山、上州や苗場山方面の山岳地帯を眺望

### 巻機山<標高1967m>

#### ～新緑と残雪の井戸尾根コース～(平成27年5月17日)

自宅から早朝に高崎までJRに揺られる。高崎でレンタカーを借り、関越道・六日町ICから旧清水峠を目指して桜坂駐車場まで25分程度。かつて旧清水峠は越後と上州を結ぶ街道で賑わったが、いまは道路

が豪雨等で寸断され、山越えのコースは、西側（苗場山方面）の三國峠に譲っている。このため、巻機山は登山客も多くなく、凛とした孤高の雰囲気を感じている。筆者は、残雪のなかで自然のままの新緑を眺め、開けた展望で谷川連峰そして、翌月に登る苗場山を遠景できた。コースは、比較的、距離は長い危険な箇所は見当たらなかった。春の静かな日帰り残雪コースとしてお勧めである。

桜坂駐車場登山口は、山開き前なのでトイレは閉まっていた。避難小屋も雪に埋もれていた。ルートは、ほぼ夏道で残雪もツボ足で大丈夫だった。

最初は新緑の林道コースが続き、展望はほほきかない。つづら折りの急坂を黙々と登った。それが5合目では、展望が開けた。広々とした尾根道の先はブナ林の斜面の雪道などが6合目の展望台から7合目まで続く。6～7合目の間は少し夏道だがほぼ雪道で、急斜面が徐々になだらかになっていく。7合目→8合目、岩石斜面や朽ちた丸太道を登る。ニセ巻機山への区間は雪の斜面を通り、急登も続いた。段差のある階段を上り標識が積雪で傾いた標識を通過してニセ巻機山1861mで一服した。ここから巻機山稜線が見えた。

雪に埋もれた避難小屋に向かって少し下り、やや急なつらい上りを経て、山頂の標識にタッチした。この標識からさらに、平原と池塘を横目に緩やかな木道を快走すると、棒一本の本物の頂に着いた。かつては、ここから上州に向かって行ったのであろうが、いまは落盤など危険なため、ここで引き返した。尾根では山岳地帯の大パノラマを楽しみ、避難小屋からニセ巻機山を登り返しつつ、下山した。

#### 【行程】

往復歩行距離13km、標高差1373m、徒歩時間(休憩含む6時間39分)



7合目にて休憩。山頂に挑む



巻機山の頂上で休憩

- 9:46 桜坂駐車場。
- 10:53 五合目。
- 12:23～12:28 七合目。
- 13:05 前(ニセ)巻機山。
- 13:20 巻機山避難小屋。
- 13:44～14:00 巻機山山頂の標。
- 14:10 巻機山。
- 14:20～14:30 巻機山山頂の標。
- 14:40 巻機山避難小屋。
- 15:40 五合目。
- 16:25 桜坂駐車場。

### 苗場山<2145m>

#### ～和田峠コース～(平成27年6月13日)

福島出張後、高崎市内で前泊。登山日には、沼田駅前からレンタカーで三國峠や清津川の水力ダムを遡って、苗場/越後湯沢へのスキー場を目指した。さすがに有名なスキーリゾートであり、しゃれた高層ホテルやスキーリフトが山並みに車窓から見える。

かぐらスキー場に停車し、スキー団体客と会いながら、和田小屋のグレンデ付近から山頂に向かった。ちょうど梅雨入りで、豪雨後であったが、運よく、登山中は雨も降らず雲の広がりのなかで青空も見えた。

苗場山は、日本屈指の巨大湿原であり天空の大湿原がある。広さは600haと東京ドーム130個分もある。この台地はまるでプリンに似ている。プリンの下までなだらかだが、下から台地まで急登で、大地は平原になる。よって、まずは登山口から長い我慢の急登が続いた。まだ山開き前であったが、山道には意外と高山植物が競うように咲いていた。嬉しかったのはシラネアオイの群生を初めて見たこと、またコイワカガミ、コバケイソウ、ナエバキスミレ、チングルマが色鮮やかだった。下の芝で休憩し、雷清水の冷水を呑み、登山の疲れをいやした。お花畑で珍しい花の写真を撮り、登山も一時休止した。

そして、雪原を過ぎ、ようやく大湿原に到着すると、散在する池塘にはガマガエルのオンパレード合唱団が出迎えてくれた。おまけに、虫までまとわりついて多く飛んできた。動植物が生き生きと動き出す時期を実感した。

広い山頂に立ち、「証拠写真」を撮ったあと、登山者にとってオープンが待ち遠しい苗場山頂ヒュッテ付近の木のベンチにすわり、ゆっくり昼食をとった。そのとき、遠方で雷鳴が聞こえたため、下山を急いだ。



残雪の木道(左)から、池塘と平原を貫く木道(右)へ続く

登山で午後はどうしても天気が崩れやすい。神楽ヶ峰を越えて、快走した。7時間たっぷりの充実した登山であった。

#### 【行程】

- 往復歩行距離11km、標高差773m、徒歩時間(休憩含む7時間11分)
- 9:54 かぐらスキー場第二リフト駐車場。
- 10:15 和田小屋登山口。
- 10:46 六合目。
- 11:12～11:24 下ノ芝。
- 12:58 雷清水。
- 13:54～13:59 苗場山山頂、苗場山頂ヒュッテ。
- 15:00 神楽ヶ峰。
- 15:25 中ノ芝。
- 16:45 和田峠登山口。
- 17:05 かぐらスキー場第二リフト駐車場。



広々とした山頂

### 印象に残る電力風景

今回は、日帰りであわただしく登山したが、次回は余裕をもって、筆者がよく利用してきた東電関係の当間高原リゾートベルナティオで前泊したいものだ。当間から巻機山、苗場山への登山



奥清津の揚水発電所 空撮 (写真提供: J-POWER (電源開発(株)))

口まで車で一時間程度と近いので、当間高原で森林浴や散策をして温泉で体調を整えてから登りたい。ベルナティオは柏崎刈羽原子力発電所や山岳地帯も通過する基幹送電線の立地で地元と深いつながりがあることもあり、地域振興への協力ビジネスとして建設したとうかがっている。

水力関係では巻機山の裏巻機溪谷は五十沢の上流部にあるV字谷で、取水施設があり水路トンネルが昭和20年代に築かれ永松地区に水力発電所がある。

また苗場山の雪解け水の落差を利用した湯沢や中津川の水力発電所は関東圏に電力供給している。東京電力HD・信濃事業所が発電管理、送電・変電を担う。電源では9電力会社が奥清津の地点共同調査をしてJパワーが建設運転した奥清津発電所(25万kW×4台)と奥清津第二発電所(30万kW×2台)は計160万kWとなり日本最大級の揚水式水力発電所となっている。

まさに両座の豪雪地帯は大電源の恵みとなって首都圏を潤している。